

# 国際大会参加報告書

平成19年 11 月 23日

社団法人 日本ボディビル連盟  
会長 玉 利 齊 様

報告者 朝 生 照 雄 (印)

大会名	第61回世界男子ボディビル選手権大会				
開催期間	2007年 10 月 25日 ~ 2007年 10 月 29 日				
開催場所	国名： 韓国		都市名： チェジュ島		
参加国数	56 カ国		参加選手数	171 名	
役員	役員名		役職・他		
	団長	玉 利 齊	社団法人 日本ボディビル連盟会長		
	監督	朝 生 照 雄	選手強化委員長		
	コーチ	粟 井 直 樹			
	コーチ	後 藤 剛			
	通訳	吉 田 進	社団法人 日本ボディビル連盟副会長		
選手	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備 考
	須 江 正 尋	東 京	70kg級	5位	
	合 戸 孝 二	静 岡	70kg級	7位	
	谷 野 義 弘	東 京	75kg級	8位	
	今 中 博 道	大 阪	80kg級	15位	
レポート	<p>今大会は世界56カ国より171名の選手が参加しており、60kg級から100kg超級までの9階級で行なわれた。1クラス15名から25名が出場し、今大会の特徴としては、75kg級が選手の数が多いのは当然ではあるが、85kg級から100kg超級にも20名前後出場しており、それもかなり仕上がりが良く好選手が多かった。昨年ドーハで行なわれたアジア競技会で入賞した選手も何人か見受けられたが、同じアジアの各国からは、新顔の好選手がかなり出場してきており、今大会でもアジア人の活躍が目立っていた。9階級のうち4階級で優勝しており、アジアのレベルが高いことを証明し、特にバーレンと韓国が国別対抗で3位と4位に入った。</p> <p>日本選手は日本選手権大会の3週間後ということもあり、全員良いコンディションで参加する事が出来、70kg級の合戸選手と須江選手はどちらも良かったが、須江選手の背中のはたき目は特に目をひき、外国の選手にはいないタイプであり、さらに表現力の巧みさも充分発揮し、見事5位入賞をはたした。合戸選手の場合は、外国選手並みの大きさと厚みがあり、かえって審査員の目を引けなかったのかもしれない。でも7位入賞はすばらしく本当に惜しいところだった。75kg級の谷野選手も好調を維持して望んだところでしたが、大変な激戦の中での8位は健闘したと言えるでしょう。</p> <p>最後に80kg級の今中選手はやはり、世界の重量級の中で、一生懸命アピールしたが、粒の揃ったハイレベルの中で孤軍奮闘し、この階級での15位入賞をはたしたことはすばらしいと思います。4人の選手とも来年のこの大会につながる良い成果でした。</p>				